

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	芝 正己		所 属	農学部 亜熱帯地域農学科	
職 名			職 名	教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.20	<p>・教育活動の主体は、フィールド科学教育研究センターの実習教育メニューである「基礎フィールド実習:分担」、「フィールド実習Ⅲ:分担」、「亜熱帯林体験実習:分担」、学科(亜熱帯地域農学)構成コースの農林共生学分野の提供科目である「国際森林・林業論:単独」、「森林人間文化論:単独」、「森林情報計測学:分担」、「外書文献講読:分担」、その他、学科共通提供科目の「動植物人間関係学:分担」、学部共通科目の「食・農・環境概論」等に基づく。実習・講義内容の向上を目標に、教材や文献資料の作成の充実を図る。学生の授業評価結果を精査して講義方法や内容の課題点の改善に努力する。</p>	0.20	<p>・フィールドセンター担当の各実習に関しては、実施方法、実習内容、評価法など、いずれもシラバスに沿った形で行えた。座学の講義に関しては、配布資料の内容、ビデオを使った視聴覚講義などに工夫した結果、学生の授業評価もほぼ満足できるものであった。なお、実習の準備や資料の作成等についての分担教員や補助技術職員との事前・事後の打合せ等、特に問題となる点は見られなかった。年次指導教員としての学生指導・助言等については十分に対応できたと考え。学生指導は重要な業務部分であり時間外でも対応できるように今後も工夫に努めたい。連合大学院博士課程学生(1名)については、文献調査、学会発表、論文投稿等の指導を行った。学部分属学生は3年生(3名)のみで、卒業論文の作成法や外書購読を中心に指導した。教育面については概ね計画通りに遂行できたと評価される。</p>	
研究	0.20	<p>・主要な学会・研究会の対象は、国内が日本森林学会(全国大会・支部大会)、森林利用学会、亜熱帯森林・林業研究会、海外がCOFE(米国林業工学協議会)、IUFRO(国際森林研究機関連合)等である。国内学会等については出来るだけ参加発表を行い、特に重要な論文については学会誌への投稿を準備する。大学院修士課程、並びに博士課程の学生と共にそれぞれの研究内容に沿った研究論文の採択を目指す。</p>	0.15	<p>・主要な国内学会である日本森林学会及び九州森林学会の年次大会、また、県内の研究会(亜熱帯森林・林業研究会)で口頭発表を行った。連次指導学生に対する研究指導として前述の各学会での口頭発表を指導した。海外学会活動については、IJFE(米国)の編集委員及びCOFE(米国)海外委員を引き続き担当している。また、マレーシアUPM大学から博士論文外部評価委員の指名を受け1名の審査に当たった。また、マレーシア林業試験場FRIM依頼の1件の論文審査も行った。以上、連大生の研究指導部分はほぼ良好な結果であったが、外部資金等の獲得実績は満足できる結果ではなかった。</p>	
社会貢献	0.15	<p>・学外の審議会、委員会のメンバーとして、国関係では「西表島森林生態系保護地域設置委員会」、「世界自然遺産候補地科学委員会」、沖縄県関係では、「沖縄県都市緑化実行委員会審査委員」、大学関係として、「全国演習林協議会理事・監事」、「全国農場協議会委員」、「全国共同利用委員会委員:北海道大学」、「全国共同利用委員会委員:宮崎大学」、その他「NPO法人森林管理協議会理事」、海外では「FSC 国際委員」、「IJFE(国際林業工学学会誌)国際編集員」等で活動しており、今後も引き続き積極的に関与していく。学外の小中高校生や一般の社会人を対象としたフィールド科学教育研究センター主催・協賛のイベント等(公開講座、オープンキャンパス、ワークショップ)への積極的な参加。その他の主要な学外での社会連携活動として、国内認証機関の審査委員、ピアレビュー委員として引き続き助言する。</p>	0.20	<p>・学内外の審議会・委員会等については、国(環境省・林野庁)や沖縄県の継続・新規役員として4つ以上を担当し、いくつかの委員会の委員長として活動した。また、北海道大学、宮崎大学主催の共同利用拠点委員会の委員としてその運営に参画した。国内外のNPO法人(FSC International:ドイツ・ボン、FSC Japan:東京)の委員、民間認証企業(SGS Japan)の評価員等もその任を継続中である。農学部やフィールドセンター参画の各イベントにも主催メンバーとして参加した。その他、民間団体依頼の講演等のボランティア活動も行った。以上、社会貢献領域については、ほぼ予定した通りの成果が上げられた。</p>	
管理運営	0.30	<p>・センターにおける諸管理運営業務(センター長、全国演習林協議会理事・監事)について積極的に関与する。副学部長として学部長を積極的に補佐すると共に、全学・学部の各種委員会メンバーとしての役割を積極的に果たす。</p>	0.35	<p>・フィールドセンター長として、全国農場協議会及び全国演習林協議会に参加し、大学間の交流に積極的に関わった。また、学内の全学、学部の各種委員会メンバーとして積極的に活動した。副学部長としての学部長の補佐、並びにフィールドセンター(千原フィールド/与那フィールド)の管理運営に関しては、ほぼ満足できるものであったと評価できる。</p>	
進路指導	0.15	<p>・学生の進路指導や就職希望の学生への県内外の就職環境の情報提供</p>	0.10	<p>・研究室分属の4年生は不在であったが、3年生を主体とした進路指導を積極的に実施した。農林共生分野所属の学部学生に対して、卒業認定条件や就職・進学等の指導を分科長として学務担当窓口と協力して行った以上、進路指導に関する一連の活動はほぼ満足できる結果であった。</p>	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		玉城 政信	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	学部担当科目(畜産共生技術論、フィールド実習Ⅱ、基礎フィールド実習1～5組および卒業論文など)を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施する。特に実習では農業の基礎を理解できるように務める。 年次指導教員(2年次)として履修・進路指導等に取り組む。			0.40	学部担当科目(畜産共生技術論、フィールド実習Ⅱ、基礎フィールド実習1～5組および卒業論文など)を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施した。特に実習では農業の基礎を理解できるように務めた。年次指導教員(2年次)として履修・進路指導等に取り組んだ。		
研究	0.15	沖縄の地域特性を踏まえた実社会で利用可能な研究開発および調査に努め、その成果を学会誌へ投稿する。			0.15	沖縄の地域特性を踏まえた実社会で利用可能な研究開発および調査に努め、その成果を3報学会誌へ投稿した。		
社会 貢献	0.10	1)沖縄畜産研究会の活動、研究会の開催に取り組む。 2)沖縄県農林高校プロジェクト発表の審査として運営に貢献する。 3)地元、沖縄県の産業振興に貢献する。			0.10	1)沖縄畜産研究会の活動、研究会の開催に取り組んだ。 2)沖縄県農林高校プロジェクト発表の審査として運営に貢献した。 3)地元、沖縄県の産業振興に貢献する。		
管理 運営	0.35	1)フィールド科学センターの運営、特に畜産関係を効率的に実施する。 2)各種委員会の活動を積極的に行う。			0.35	1)フィールド科学センターの運営、特に畜産関係では放牧地の帯状放牧を含めた有効利用、法面の活用を効率的に実施し、雑草類の除去にも貢献した。 2)各種委員会の活動を積極的に行う。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 光	所 属		農学部 フィールド科学センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部科目として基礎フィールド実習、緑化植物管理学、園芸福祉学概論、動植物人間関係学(5コマ)、農業実践論、情報科学演習(5コマ)、亜熱帯地域農学演習、フィールド実習Ⅰ(分担)を担当する。2年次指導教員として学生の支援・指導にあたる。4年次の卒論指導と修士課程学生の指導にあたる。障がい学生支援室併任教員として学生の支援にあたる。			0.35	基礎フィールド実習(分担)、緑化植物管理学、園芸福祉学概論、動植物人間関係学(5コマ)、農業実践論、情報科学演習(5コマ)、亜熱帯地域農学演習、フィールド実習Ⅰ(分担)の他、新規開設の造園施工基礎演習を担当した。2年次指導教員として学生のコース配属などを行った。4年次の4名の卒論指導と修士課程学生の研究指導をした。障がい学生支援室併任教員として学生の支援協議を行った。		
研究	0.30	道路雑草の防除に関する研究で外部資金を獲得し研究を進める。学会等で研究成果を発表する。			0.35	受託研究(1件)を獲得し、研究業務報告書をまとめた。研究成果発表は、論文1報、口頭発表5報、報告書1報であった。		
社会貢献	0.10	日本芝草学会評議員、日本園芸福祉普及協会理事、おきなわ園芸福祉協会会長としてそれぞれの責務を果たす。			0.05	日本芝草学会評議員、日本園芸福祉普及協会理事、おきなわ園芸福祉協会会長としてそれぞれの職責に従事した。その他、学外の委員等は4件であった。		
管理運営	0.30	フィールド科学センター次長として管理・運営にあたる。農学部予算委員、広報委員、入試委員等の委員会活動に臨む。			0.25	フィールド科学センター次長として管理・運営にあたった。農学部予算委員、広報委員、入試委員の他、障がい学生支援室運営委員として学部および大学の委員を務めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		モハメド アムザド ホサイン	所 属		農学部亜熱帯フィールド科学教育研究	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	1. 学部担当科目(基礎フィールド実習1~5組、作物栽培環境学、外国文献講読および卒業論文)と大学院担当科目(亜熱帯農学特別演習Ⅰ、亜熱帯農学特別演習Ⅱ、亜熱帯農学特別研究Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅱ、亜熱帯農学特別研究Ⅲ、亜熱帯農学特別研究Ⅳ、栽培実践学特論及び熱帯生物資源生産学)及び博士課程の研究指導を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施する。特に実習では農業の基礎を理解できるように務める。 2. 授業評価などの指摘、自らのアイデアに基づく授業の改善を行う。 3. 留学生への受け入れ及び指導を行う。			0.30	1. 学部担当科目(基礎フィールド実習1~5組、作物栽培環境学外国文献講読および卒業論文)と大学院担当科目(亜熱帯農学特別演習Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅲ、栽培実践学特論及び熱帯生物資源生産学)及び博士課程の研究指導を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義・指導を実施した。特に実習では農業の基礎を理解できるよう指導した。 2. 授業評価などへの指摘、自らのアイデア、新しい情報に基づく授業の改善を行った。 3. 1名の留学生を大学院生として受け入れ、2016年4月末より指導を継続的に行っている。 4. 1名の外国人を研究員として受け入れ、2016年5月末より指導を継続的に行っている。		
研究	0.25	1. 卒業論文、修士課程及び博士課程の学生の研究を行い、その成果として国内外の学会において発表を行い、また学会誌への投稿も行う。 2. 外部資金に関連した研究を実施する。 3. ウコンの栽培に関する研究を行う。またその成果を周辺地域に提供する。 4. 上記研究の成果を学会で発表する。			0.25	1. 4名の4年生の研究・卒業論文、6名の修士学生の研究・修士論文および6名の博士学生の研究、論文作成指導を日々行った。その成果として国内外の学会における発表を行い、また学会誌への投稿を行った。 2. 外部資金5件、計約209万円の資金をもとに、関連したウコンおよび様々な作物栽培に関する共同研究を実施した。 3. ウコンの有機栽培に関する研究を行った。またその成果を周辺地域に情報提供した。 4. 上記研究の成果を国内外の学会における発表(6件)を行い、また学会誌への投稿(2件)を行った。		
社会 貢献	0.20	1. 国内及び国際学会で編集員として活動する。 2. 地域の植物に関する教育に貢献する。 3. 国内外からの訪問者及び研究者に熱帯・亜熱帯地域の作物に関する情報を提供する。 4. 地域の農家及び企業の発展の為、技術指導を行う。			0.20	1. 国内及び国際学会で編集員としての活動を行った。 2. 地域の農業や植物に関する教育の一環として、東京と福岡の企業にウコン栽培に関する実地指導、講義を行った。 3. 国際農学プログラム参加者(中国)へのウコン栽培に関するレクチャーを行った。 4. 沖縄本島内、その他宮古島・伊良部島や石垣島のウコン栽培農家、組合に対し、月1回の割合で実地・技術指導を行った。また地元企業の発展の為、商品開発に係る指導・助言を行った。		
管理 運営	0.15	1. 学内の委員会へ積極的に参加する。 2. 所属部局及び所属学科の管理運営に貢献する。 3. フィールドセンターの圃場グループ全体の管理・運営を行う。 4. 修士及び博士課程の入試に関連する業務を行う。			0.15	1. 学内の委員会(1件)へ積極的に参加した。 2. 所属部局及び所属学科の管理運営に貢献した。 3. フィールドセンターの圃場グループ全体の管理・運営を行った。 4. 修士及び博士課程の入試に関連する業務を行った。		
進路 指導	0.10	1. 学生の教育、研究と就職に関する助言、指導を行う。 2. 学生の生活における相談に乗る。			0.10	1. 研究室所属および所属希望の学生の教育、研究と就職に関する助言、指導を行った。 2. 学生の生活における相談に乗った。		
計	1.00				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高嶋 敦史	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	教育活動においては、実習や講義の内容の一層の充実を図る。学生支援活動においては、研究室に配属されている学生や年次指導対象の2年生を中心に、研究・学習面で丁寧なアドバイスをを行うとともに、生活面などもケアできるようにする。			0.25	「森林情報計測学」では、最新の情報を追加しながら講義内容のアップデートに取り組んだ。「基礎フィールド実習」や「亜熱帯林体験実習」では、従来の内容を土台に、学生にわかりやすい説明を心がけた。研究室の学生の履修指導や、年次指導の2年次生のコース分け対応も行った。その他、全国大学演習林協議会の「公開森林実習」運営委員や、北海道大学と連携する教育関係共同利用拠点事業の業務などにも取り組んだ。		
研究	0.30	与那フィールドの林分構造・動態データの蓄積に取り組む。「環境研究総合推進費」では、奄美・琉球の亜熱帯林における大径木樹洞の発生状況や、イタジイの種子生産量などに関する調査を展開する。また、屋久島のヤクスギ林に関する研究では、過去の成果を公表するとともに、新しい研究を開始するための準備に取り組む。			0.30	与那フィールドの林分構造・動態データの蓄積は、十分に達成できなかった。「環境研究総合推進費」による大径木の樹洞調査やそれに伴う希少種の分布調査、イタジイの種子生産量調査などでは一定の成果が得られた。屋久島のヤクスギ林に関する研究では、過去の成果を「Journal of Forest Research」にて公表し、今後の取り組みについては科研費申請を行った。		
社会 貢献	0.15	与那フィールドを使った公開講座やワークショップの実施、各種研修の受け入れなどに取り組む。また、「やんばる国立公園」の指定やその後の世界自然遺産登録を目指す地域の活動に協力する。			0.10	公開講座「やんばる山学校」の講師を務めた。与那フィールドのオープンフォレスト(ワークショップ)は3月に開催する。また、「世界自然遺産推薦地地域連絡会議」の下部組織である「沖縄島北部部会」や、「やんばる型森林ツーリズム推進体制構築検討委員会」の「専門部会」に参加した。		
管理 運営	0.30	「やんばる国立公園」の指定に伴い、与那フィールドとして必要な対応にあたりるとともに、利用者の許認可手続き等を支援する。また、九州地区演習林技術職員研修を当番校として開催する。			0.35	国立公園指定後、与那フィールド内で自然公園法が適用される各種行為について、許認可手続きや利用者への対応等にあたった。九州地区演習林技術職員研修は10月に開催した。また、林道や宿泊施設の修繕工事などにも対応した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		嬉野 健次.	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	・担当講義について、学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料の作成を工夫する。学生が本実験の意義を理解したかを判断するため毎回小テストを課す。研究室の学生の進路の相談にのる。			0.30	・担当講義(専門科目5科目(うち2科目は分担で各2コマと4コマ担当), 実験科目1科目, 共通教育科目(分担2コマ), その他(卒論, 演習)について, 計画通りの講義を行った。研究室の学生に就職情報を随時提供した。		
研究	0.30	・科学研究費で採択された課題ならびに美ら島財団より採択された課題について研究を遂行する。また, 研究成果を学会へ発表する。			0.30	・沖縄に自生する台湾ヤマツツジとケラマツツジの浸透交雑の可能性について, 園芸学会で発表した。また, 九州大学との共同研究で行った台湾ヤマツツジの色素分析についての論文が, 園芸学会雑誌に掲載された。		
社会貢献	0.20	・新聞社, 個人などからの植物に関する問い合わせに対応する。また, 熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会の外部評価委員, および園芸学会九州支部評議員を務める。また, 九州大学大学院の非常勤講師を務める。			0.20	・熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会の外部評価委員, および園芸学会九州支部評議員を務めた。また, 九州大学大学院の非常勤講師として集中講義を行った。		
管理運営	0.20	・代議員, 教育委員会委員, 農学部改修ワーキング委員等を務める。			0.20	・本年度担当した委員の任務を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前		川本 康博	所属	農学部 亜熱帯地域農学科	職名	教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	前期:学部担当科目(循環畜産学[3コマ], 家畜環境管理学[7コマ], 熱帯飼料 草地理学実験, 卒業論文I・II), 後期:熱帯草地理学, 草地生産管理学, 人口と食糧 [2コマ]を担当すると共に, 研究科担当科目(熱帯草地理学特論, 特別研究I・II, 亜熱帯農学特別演習), 連合大学院科目(動物資源生産科学特別講義[1コ マ])についてシラバスに沿って講義・実験・演習を行う。派遣された交換留学学生 の指導を行う。インターンシップ(キャリア実習)を海外の大学等とも連携して行 うようなプログラムを作成し, 手続きを調整する。		0.25	1)講義等:前期)学部担当科目(循環畜産学[3コマ], 家畜環境管理学[7コマ], 熱帯 飼料草地理学実験, 卒業論文I・II), 後期)熱帯草地理学, 草地生産管理学, 人口と食糧[2 コマ], 研究科担当科目(熱帯草地理学特論, 特別研究I・II, 亜熱帯農学特別演習), 及 び連合大学院科目(動物資源生産科学特別講義[1コマ])についてシラバスに沿って 講義・実験・演習を行った。また, 交換留学学生(タイゲン大学へ派遣)の指導を行っ た。インターンシップ(キャリア実習)をグアム大学と連携したプログラムを作成し, 学 生を派遣した。	
研究	0.20	沖縄県, 海外の研究機関, 本学大学院博士課程の学生と共に各研究内容に 沿った2~3の研究論文を発表する。外部資金(2事業)を獲得し, 関連組織との 共同研究を継続・開発し, 農学研究, 地域農業振興につながる技術の研究開発 に努める。		0.25	1)沖縄県, 海外の研究機関, 本学大学院博士課程の学生と共に各研究内容に沿 った2編の研究論文を発表した。2)外部資金(1事業)を獲得し, 県畜産研究センターと の共同研究を継続・開発し, 農学研究, 地域農業振興につながる技術の研究開発に 努めた。3)他大学との共同研究を行い, 2編の研究論文を発表した。	
社会 貢献	0.10	沖縄県, 県畜産振興公社, 沖縄総合事務局から依頼される推進会議並びに調 査等の兼業を行うと共に, 県内農家・農業団体一般・高校生等に対し, これまで の研究成果等の普及を推進し, 産学連携事業を進めることによって社会貢献を 行う。また, 国際協力機構の研修コース講師(2つの研修プログラム)と, 鹿児島 大学の非常勤講師を務める。		0.10	1)兼業等:県畜産振興公社のみ。2)学位授与機構の法人評価委員として, 評価業 務に携わった。3)国際協力機構の研修コース講師(2つの研修プログラム)と, 鹿児 島大学の非常勤講師(2回)を務める。4)ネット回線を活用して, 名桜大学へ講義を提 供した。	
管理 運営	0.50	副学長としての職責上の業務を遂行する。併せて, 関連会議の委員, または委 員長を務める。		0.40	副学長としての職責上の業務を遂行した。併せて, 関連会議の委員, または委員 長を務めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定 してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		佐野 文子	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.45	教育:家畜衛生学および微生物学の教育を通じて、食の安全、畜産従事者の健康などについての意識の向上を目標とした教育を行う。学生支援:履歴書の書き方、ペン字の基本などの進学・就職活動に必要な基礎をアドバイスする。研究者志向の学生には研究の魅力と大学院生活およびその後の進路概略について、希望を持って進めるようなアドバイスを行う。また、社会人の大学院進学を積極的に促す。			0.00	教育目標は概ね達成した。また、26年度に家畜衛生講義を公開する機会があり、その時に講義内容が不適切とのご意見をいただいたが、私の信念として、不適切とされた「狂犬病」は、畜産関係以外の学生でも、今後、海外での活躍をする時に、絶対に必要な知識である立場で、本年度も、重点的な内容を講義した。学生支援として、基本知識のアドバイスも良好に行ったと思う。今年度は社会人が連大を受験することとなった。		
研究	0.25	家畜衛生学領域を意識した人獣共通感染症、特に真菌を原因菌とする感染症に関する研究およびその成果発表を国内外の研究者との共同研究として推進する。			0.00	社会で活躍中の若手医師・獣医師の研究指導を行い、国内学会での発表につなげた。国際共同研究はブラジル・パラナ州立ロンドリーナ大学のイタノエイコ教授と、高度病原性真菌症の免疫疫学を進めている。さらに本学医学部、美ら海水族館とも、共同研究を進めている。		
社会貢献	0.20	獣医師としての感染症対策などに関する啓発活動および医師、獣医師などからの検体の診断サービスをおこなう。JICAの日系人研修受け入れに応募する。			0.00	動物病院、水族館など獣医臨床関連検体および医学領域の検体(真菌)の同定、抗体検査、薬物感受性検査などを行い、診断結果をフィードバックした。JICAの日系人研修受け入れに応募し採用となり次年度に受け入れを予定している。		
管理運営	0.10	教室運営および大学内の各種役割への積極的に参加する。学生の安全への配慮を重視する。			0.00	学内の実験動物委員会委員として動物実験での動物愛護、苦痛の除去のアドバイスを行った。また、来期も引き続き活動が続けることとなっている。農学部の鳩フン対策としてパティオに不要なCDを吊るし、大学で防鳥ネットが設置されるまでの応急措置を行った。鳥インフルエンザ侵入防止として鳥類の死骸の積極的除去に勤めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊村 嘉美	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	「情報科学演習」(前期)の内容を大幅に更新する。「飼養栄養学」と「家畜飼料学についての内容の更新を行う。「外国語文献購読」と「家畜栄養学特論」については内容を全面改定する。指導教員(3年性)に対して、キャリア教育に重点を置き、キャリア実習や進路に対する取り組みを促す。			0.35	「情報科学演習」等の講義内容の改定は予定通り実施した。指導教員担当学年である3年生の指導を年次懇談会や1、3研修で実施した。		
研究	0.20	研究のための外部資金を1件以上獲得する。			0.25	外部資金を2件獲得し、共同研究「県産薬草類添加飼料の消化性と消化管内微生物叢に関する研究」および「泡盛蒸留粕乳酸発酵飼料によるブランド豚の創出」を実施完了した。		
社会 貢献	0.20	沖縄県の地域の課題解決に関係するプロジェクトに積極的に参加する。			0.15	エコフィード、山羊経営および県の試験評価に関連する検討会議に委員として関わった。		
管理 運営	0.25	各種委員会活動に積極的に参加する。特に学部の自己評価委員として、現況調査票の仕上げに貢献する。			0.25	可能な限り出席し、各種委員会活動に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平川 守彦	所 属		農学部亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.45	学部担当科目(循環畜産学、家畜行動管理学、家畜福祉論、動植物人間関係学、外国文献購読)を担当し、他学科、他講座の学生にもわかりやすい講義を行う。大学院では、家畜管理学特論を担当し、活発な討議のできる講義にする。 4年次学生に就職指導を行う。			0.45	学部担当科目(循環畜産学、家畜行動管理学、家畜福祉論、動植物人間関係学、外国文献購読)を担当し、他学部、他学科、他講座の学生にもわかりやすい講義を行った。大学院では、家畜管理学特論を担当し、活発な討議のできる講義にした。 4年次学生(3名)に就職指導を行い、全員の就職が決定した。		
研究	0.20	・沖縄の在来家畜である与那国馬とヤギを使用してヒトに対する癒し効果に関する研究をおこなう。 ・アニマルウェルフェアを考慮したヤギとチャーンの放飼に関する研究を行う。			0.20	・沖縄の在来家畜である与那国馬とヤギを使用してヒトに対する癒し効果に関する研究をおこなった。 ・アニマルウェルフェアを考慮したヤギとチャーンの放飼に関する研究を行った。		
社会貢献	0.15	・九州・沖縄アニマルウェルフェア(産業動物)連絡会において「アニマルウェルフェア・シンポジウム in 沖縄」を10月に開催する。			0.15	・九州・沖縄アニマルウェルフェア(産業動物)連絡会において「アニマルウェルフェア・シンポジウム in 沖縄」を10月21日(金)に開催した。県内外から65名の参加者があり、活発な討議が行われた。		
管理運営	0.20	学部においては、代議員、入試委員、進路指導委員、また、全学においてはハラスメント支援センターワーキンググループ、ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行う。			0.20	学部においては、代議員、入試委員、進路指導委員、また、全学においてはハラスメント支援センターワーキンググループ、ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内藤 重之	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	<p>学部担当科目については資料を配布するとともに、ビデオ視聴や現地視察等を取り入れて理解しやすい講義を行う。授業終了時に学生から質問と感想を提出してもらい授業の改善に努める。大学院担当科目については意見交換を行い受講生の問題関心に沿った授業を行う。また、都市農村交流や食料・農産物流通等に関する研究成果を授業に反映させる。</p> <p>研究室の学生や担当科目の受講生等に対して進路(進学・就職)についてのアドバイスを積極的に行う。</p>			0.40	<p>学部担当科目については教科書を補うために、必要に応じて資料を配付するとともに、ビデオ視聴や沖縄県中央卸売市場、JAおきなわ本所、ファーマーズマーケットの視察を行うなど、できるだけ理解しやすい授業に努めた。また、大学院担当科目については学生の問題関心に合わせて一部シラバスの内容を変更するなどの対応を行った。さらに、学部・大学院の担当授業とも研究成果を授業に反映させることができ、目標を達成できたと考えている。学生の感想等を参考にしながら、今後さらに授業を充実させていきたい。</p> <p>学生支援に関しては、研究室の学生や担当科目の受講生等に対して進路やインターンシップに関するアドバイスを行った。</p>		
研究	0.25	<p>科研費の研究代表課題および研究分担課題の調査研究を遂行するとともに、研究成果を学会において報告する。また、共著書を執筆し、年度内の刊行を目指す。さらに、研究代表課題である科研費が最終年度となるため、科研費に応募して獲得を目指す。これらと併せて、日本農業経済学会、日本農業市場学会、食農資源経済学会、沖縄農業経済学会の理事、農業理論研究会の事務局としての役割をそれぞれ果たす。</p>			0.25	<p>科研費等の調査研究をほぼ計画どおり遂行できた。科研費の研究代表課題については研究成果を日本農業市場学会と食農資源経済学会において発表するとともに、共著書を執筆・編集し、出版社に出稿した。また、研究分担課題については日本農業市場学会に投稿した共著論文が受理された。</p> <p>今年度就任した日本農業経済学会企画常務理事の仕事に予想以上に時間を費やすことになったが、他学会や研究会についても役員等としての役割を果たすことができたことから、目標を十分に達成できたと考えている。</p>		
社会 貢献	0.08	<p>沖縄総合事務局農林水産部農村振興課関係の業務における企画競争案件に関する有識者委員会委員をはじめとする国関係の委員、沖縄県振興審議会委員、沖縄県農政審議会特別委員、沖縄県経営構造対策推進協議会委員など沖縄県関係の委員、うるま市農業振興ビジョン策定委員会委員など市町村関係の委員等として、それぞれ役割を果たす。</p>			0.10	<p>授業や学内業務の関係で出席できなかった委員会等も若干あったが、新たに沖縄県卸売市場審議会の会長や国頭村農業農村基盤整備事業のワークショップ総括ファシリテーターを務めるなど、当初の目標以上に各委員会や審議会等の委員としての役割を果たすことができたと考えている。</p>		
管理 運営	0.27	<p>学科長として学科の運営に注力するとともに、全学的な委員会である琉球大学情報公開委員会、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会の委員として、また農学部の代議員、将来計画委員、自己評価委員、人事委員、入学試験委員、進路指導委員、防火管理委員、中期目標・中期計画推進会議委員、研究戦略会議委員等として、それぞれ責務を果たす。</p>			0.25	<p>初めての学科長で戸惑うことも多かったが、学科の管理運営に力を入れ、職責を果たすことができたと考えている。また、授業等で出席できない場合を除き、開催された委員会にはすべて出席し、委員としての責務を果たすことができたと考えている。</p>		
	0.00				0.00			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉村 泰彦	所 属	農学部 亜熱帯地域農学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	①学部については、URGCCで掲げられた目標を達成しうる講義内容を構築するとともに、より深い学びへ接続できる内容とするよう努力したい。 ②大学院修士課程、および連大博士課程については、本人の素養と問題意識を表現しうる論文の作成を目標として指導したい。		0.45	①②ともに、改善点を残しつつも、概ね目標は達成された。	
研究	0.45	①科研費基盤研究(C)(一般)が採択中であることから、遅滞なく研究を遂行する。特に昨年度から持ち越した課題があることから、研究計画の管理に万全を期す。		0.40	①国内調査、海外調査ともに計画通り実施した。それを踏まえ、さらに課題も発見できたので、次年度以降、鋭意取り組みたい。さらに、国際沖縄研究所のプロジェクトに加わり、学内組織での研究活動を開始した。	
社会貢献	0.05	本年度は①沖縄総合事務局「都市農村共生・対流総合対策交付金等評価委員」、②同「農業農村整備事業等補助事業評価技術検討委員」、③中央畜産会「軽種馬経営高度化研修委員会」委員への就任が見込まれており、それらを通じて、地域および産業への貢献を目指す。		0.05	①～③に加え、内閣府「中山間地域所得向上支援対策に係わる有識者委員会委員」、沖縄県「再生水農業利用の経営検討委員」に就任し、地域および産業の発展に資するよう努力した。	
管理運営	0.10	前年度に引き続き、学部教育委員、FD委員会、広報委員、全学学士教育プログラム委員会の4委員会を中心に責務を果たしつつ、農学部本館改修WGなどでもより良い結果を導き出せるよう努力する。		0.10	予定通り、委員に就任し、目標にしたがって活動した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大田伊久雄	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	森林政策学の授業において、小テストやレポート、学生によるプレゼンテーション等をまじえて出来るだけインタラクティブな授業をするよう工夫をする。研究室のゼミでは、他の教員と協力しながら、学生の自主性を尊重しつつ卒業論文・修士論文に向けて着実に学力を身につけられるような指導を行う。			0.50	森林政策学の授業に関しては、目標通りのインタラクティブな授業が行えた。研究室ゼミにおける卒業論文の指導に関しては学生の自主性を尊重することを重視したが、一部の学生が非常にのびのびと面白い研究が出来たのに対し、別の学生は消極的な学習態度に終始し卒業論文の作成が思うように出来なかった。		
研究	0.45	今年度が最終年度となっている科研(分担研究者として参加)では、成果物の共著書を発表する。また、自分が研究責任者となる科研が本年3月で終了したので、来年度の採択に向けて申請書に注力する。現在投稿中の学会誌論文の掲載に向けた努力をする。			0.40	科研費による海外調査を複数回行い、予定通りに成果としての共著書の原稿執筆を終えることが出来た。投稿中の学会誌論文も今年度中に3本掲載されることになり、予想以上の成績であったと感じている。		
社会 貢献	0.05	林業経済学会理事として学会運営に貢献する。現在担当している地方公共団体の委員会委員等の役職を引き続き務め、さらに要請があれば参加の範囲を拡大する。			0.05	林業経済学会の広報渉外担当理事として森林関連5学会合同シンポジウム「主伐を考える」(2016/12/25・東京)を主催することが出来た。地方公共団体の委員会等の役職も特に問題なくこなせた。		
管理 運営	0.05	農林経済学分野長、図書館運営委員会委員、人事調書作成委員会委員。			0.05	分野長ならびに各種委員会委員としての業務を滞りなく遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	